

感動の場

『無題』

1948年 小川原 脩 画



絵の右側に楚々と佇む、白い山容はイワオヌプリ。そして左側のやや手前にあるのは山頂が雲に覆われているニセコアンヌプリで、北へ広がる裾野や雪のある沢が見て取れます。そこから、所々に緑が混じる薄茶色の林が広がっていて、赤い丘陵へとつながります。移ろいゆく季節の合間にさまざまな顔を見せるニセコの山麓風景は、北海道の風景の中でも多くの人を魅了し、小川原脩もまた、この故郷の山々を題材にしました。

これが描かれた1948年頃は戦後の混乱期で、まだまだ日本中が戦争の痛手を負い、皆が生活を立て直すことに必死だった時代です。小川原もまた例外ではなく、終戦直前に疎開という形で東京を離れ倶知安に移り住んではいましたが、国会議員として奔走する父・政信氏の手伝いに追われていた様子が、遺された書簡などから分かってきました。ようやく絵画の制作に時間を費やせるようになった時、彼が描いた一点が、このニセコアンヌプリの風景画だったのです。

文：沼田 絵美（小川原脩記念美術館 学芸員）

ふるさと探訪

469回

セキレイ ― 鶺鴒と日本神話（国産み神話） ―

雪が解けると、アスファルトの上などでよく見られるセキレイは、長い尾を上下に振りながら歩く姿がかわいらしい野鳥です。セキレイという名は中国の呼び名「鶺鴒」を音読みしたもので、「背筋を伸ばした美しい姿勢の鳥」という意味をもっています。

セキレイは日本の文献に最初に現れる記念すべき鳥でもあり、「日本書紀」の「国産み神話（日本誕生）」に登場します。男女二柱の神、イザナギとイザナミが天から降りてきて日本の国土を生み出そうとするも、方法がわからず困っていたところ、現れた2羽のセキレイの仲むつまじい姿からヒントを得て、次々と子ども（国や神）を産んだ、と記されています。ここからセキレイは「コイオシエドリ（恋教鳥）」とか「トツギオシエドリ（嫁ぎ教鳥）」とも呼ばれます。

セキレイのうち、最もよく見かけるハクセキレイは、ユーラシア大陸からアフリカ大陸まで広く分布しています。日本では、もともと北海道と東北地方の沿岸部でのみ繁殖していたのが、1970年代に関東に進出し、現在では九州までの広い地域で見られるようになりました。それに対し、セグロセキレイは日本固有種と言われ、昔から日本全国に見られます。日本神話の舞台は主に西日本ですが、この時代にはまだハクセキレイは北海道や東北地方でのみ繁殖していたことを考えると、神話に登場したセキレイはセグロセキレイだったのかもしれませんが。

文：林 伸也（倶知安風土館 学芸補助員）



▲ハクセキレイ（風土館で撮影）

展覧会のお知らせ

■第1展示室

小川原脩展「遙かなるイマージュ」

会 期：開催中～5月15日(日)

没後20年小川原脩展「私の中の原風景」part1

小川原脩没後20年にあたる今年、改めてその画業についての再評価や研究を重ねてきた成果を交えて、小川原作品の新たな魅力に迫ります。

会 期：5月21日(土)～8月15日(月)

■第2展示室

おしゃべり美術館 対話鑑賞のススメ

小川原脩の作品を、会話を楽しみながら鑑賞する展覧会です。友人と、家族と、おひとりでも、語らいながら絵の中の出来事をひも解いてみましょう。キャラクターの「とりっちー」と「つぼっちー」が展覧会をご案内します。

会 期：開催中～7月10日(日)

アート・イベントのお知らせ

■ギャラリー・トーク

「没後20年小川原脩展 新たな発見」

2002年8月に没した小川原脩。この20年の間に、彼の画業は幾度となく再評価されつづけてきました。また修復や文献調査により明らかになりつつある絵画改変の痕跡など、新たな発見について解説します。

日時：5月21日(土)14時～14時30分 会場：第1展示室(無料)

お話：沼田 絵美（学芸員）

■土曜サロン

おとなの手しごと(12)「おしゃべりな絵を模写しよう」

＜おしゃべり美術館＞には「何が描かれているかな」と探するのが楽しくなる絵がたくさん！展示室で好きな作品を「模写」します。はじめてでも楽しく挑戦できます。

日時：5月14日(土)14時～16時 会場：ロビー（無料）

お相手：沼田 絵美（学芸員）

定員：10名 ※要予約、高校生以上、親子可

名曲とめぐる世界の美術館(1)「ルーブル美術館」

世界の美術館をクラシックの名曲とともにめぐる映像を鑑賞します（全5回）。1回目はレオナルド・ダ・ヴィンチの《モナ・リザ》、ドラクロワの《民衆を導く自由の女神》など、世界的名画の数々を有するパリのルーブル美術館です。

日時：5月28日(土)14時～14時45分 会場：映像ルーム(無料)

倶知安風土館イベントのお知らせ

■倶知安風土館いきもの調査隊 in 百年の森「セイヨウオオマルハナバチ採集調査会」

ヨーロッパから来た外来種セイヨウオオマルハナバチを捕まえて、詳しくなりません。

日時：5月14日(土) 9時～12時 集合：百年の森公園（現地集合）※予約不要

定員：なし 講師：小田桐 亮（風土館職員）、宮崎 守（百年の森管理人）

参加費：無料 持ち物：虫捕りあみなど

ミュージアム 通信

小川原脩記念美術館 ☎21-4141

観覧料：一 般 500円(400円)

高 校 生 300円(200円)

小中学生 100円(50円)

倶知安風土館 ☎22-6631

観覧料：一 般 200円(100円)

高校生以下、美術館観覧者無料

開館時間は9時～17時
入館は16時30分まで
※（ ）内は10名以上の団体料金
5月の休館日 毎週火曜日（3日は開館）、9日、美術館のみ16～20日（展示替えのため）

ごあいさつ

皆さん、初めまして！

本年4月より小川原脩記念美術館館長となりました、福原です。

前任の柴館長は学芸員として素晴らしい経歴をお持ちの方で、約8年間の長きにわたり館長職を務めていただき、当美術館の発展に大いに寄与して頂きました。そのようなすごい方の後任となった私はと申しますと、学芸員の資格を持たない普通の役場職員であります。普段は公民館に勤務していますが、この度美術館長を兼任することとなりました。少し頼りない館長ではありますが、スタッフの職員は経験豊富でこれまで以上に充実しつつあります。

当コラムも風土館長でもある私なりの目線で書いていけたらと思っていますので、どうぞよろしくお願いします。

館 長 福 原 秀 和

★こどもの日（5日）は小中学生無料
展覧会初日（21日）は観覧料無料